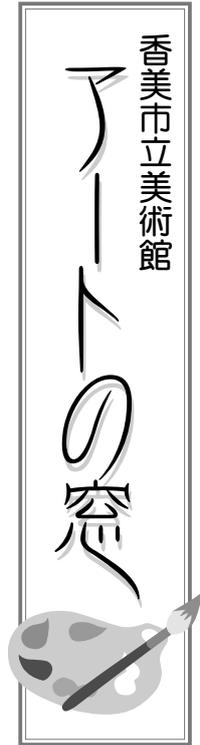


香美市立美術館



「深沢幸雄 作品展」

銅版画からガラス絵まで

5月13日(土)～6月11日(日)

日本を代表する銅版画家・

深沢幸雄の個展を高知で初めて開催します。国際的に評価の高い銅版画をはじめ、近年並行して制作してきた書・陶芸・パステル画、そして最新作のガラス絵まで一堂に展示し、「深沢幸雄の世界」を堪能していただける展覧会として企画しました。

一九二四(大正十三)年生まれ、東京芸術学校(現・東京芸術大学)卒業後、一九五〇年に千葉県市原市に移住。独学で銅版画の道を追究し続け、アクアチントやエッチングをはじめ、さまざまな技法を自由に使いこなし、表現の幅を広げていきました。一九五七年には、日本版画協会において、日本版画協

会賞を受賞。同じく第一回

東京国際版画ビエンナーレ展入選。以後、国内外の多くの版画展に出品し、受賞を重ねていきます。

一九六三年には、メキシコ国際文化振興会の依頼により、メキシコシティで銅版画の技法を教え、その後メキシコ各地を巡り、古代文明から受けた強い衝撃が、深沢のモノクロの版画世界を一変させ、単純で力強い



「アシェンダの地下にて」
深沢幸雄

色彩版画制作への移行のきっかけとなりました。その後より繊細で詩的な「心象の世界」を表現していくようになり、写真の「アシェンダの地下にて」(一九八〇年の作品)には、彼の叙事詩的世界が広がっています。その後、心象的叙情の世界をメゾチント技法で表現し、彼独特の美しい色彩版画を生み出しました。

今回の展覧会の約九十点の作品は、深沢幸雄の自選の代表作であり、特に今回の展示のために制作されたガラス絵の数々は、まさに絵画の中の宝石といつても過言ではない美しい作品群となっています。お見逃しなくご来館ください。

(館長・北 泰子)

前田美智子さんが文学賞(俳句)を受賞

「第三十一回高知県短詩型文学賞」(同運営委員会主催)表彰式が三月二十六日、高知市民図書館で行われ、最も優れた作品に贈られる文学賞に、俳句の部で前田美智子さん(土佐山田町)の「胎内音」が選ばれました。

【受賞作品の紹介(一部)】

山畑へ拳のよふなにぎりめし
前田美智子

桑いちご軍鶏飼う男すでに
軍鶏

九編、川柳三十六編の作品の中から選考され、このほか、俳句の部の佳作に安丸榎子さん(土佐山田町)の
蕎麦咲いて胎内音を聴いて
いる

～『まちの声』を募集～

「広報 香美」では、私たち市民の意見・思いを行政に、あるいはまちの人々に伝えるための『まちの声』コーナーを計画しています。次の要領で募集を行いますので、気軽にご意見等をお寄せください。
募集要領 = 400字以内、かい書で、必ず住所・氏名・年齢・電話番号(または連絡方法)を明記してください。(実名掲載ですが、特に匿名希望の場合は理由を添えてください)趣旨を変えない範囲で直すことがあります。提出された原稿等については返却いたしませんのでご了承ください。商取引や営業色の濃いものなどは、掲載いたしません。なお、誌面の都合で掲載できない場合があります。
投稿先 = 〒782-8501
香美市土佐山田町宝町1-2-1
香美市役所企画課内広報委員会事務局
FAX 53-5958
E-Mail info-kikaku@city.kami.kochi.jp